

ときめき

No.458
2023 12-28

有機水稲のハウス内育苗方法について

有機水稲のハウス内育苗において、追肥を播種後 20 日の 1 回のみとし、窒素成分を慣行の 3 割に抑えることで、徒長を防ぎつつ、機械移植が可能な葉齢 4 葉の成苗を育苗期間 35～37 日（5～10 日短縮）で育成可能なことが明らかになりました。

【背景】

本県の「水稲有機栽培技術指針」では、雑草との競合に強い成苗（草丈 15～20 cm 程度、葉齢 4 葉以上）を育成するため、育苗は屋外の水田苗代等で行い、追肥は粒状の有機質肥料の 2 回施用を推奨しています。

一方、水田苗代での育苗は苗の運搬にかかる負担が大きく、生産現場では育苗ハウス内で行うことが多くなっています。

しかし、ハウス内での育苗は高温により苗が徒長しやすく、5 月以降の気温によっては機械移植に支障をきたすため、苗の上部を切除せざるをえない事例があります。

そこで、有機水稲のハウス内育苗における追肥方法と育苗期間を検討しました。

【結果】

追肥は播種後 20 日に箱当たり窒素成分 0.9g を 1 回のみ施用とすることで、従来の追肥 2 回（窒素成分 3.0g）と比較して、播種後 25 日以降の苗の徒長を抑えられ、播種後 35～37 日に草丈 20 cm 程度、葉齢 4 葉に達することが確認できました（図 1）。この結果から 5 月以降のハウス内育苗において、追肥回数と育苗期間を制限とすることにより、機械移植が可能な成苗を育成できることが明らかになりました。

問い合わせ先：栽培研究部有機農業科（担当：松本樹人）

TEL 0853-22-6982

E_mail:nougi@pref.shimane.lg.jp

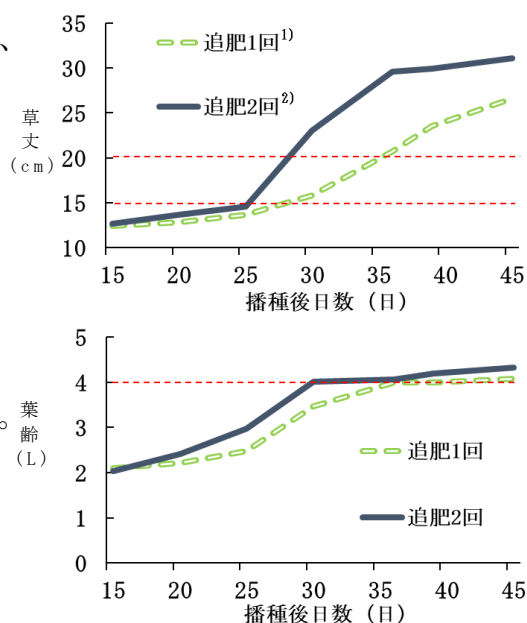


図 1 ハウス内育苗における草丈及び葉齢の推移

1) 播種後 20 日に窒素成分 0.9g/箱施用
2) 播種後 15・25 日に窒素成分各 1.5g/箱施用